

事業名	精神保健福祉活動支援事業
事業の実施状況	<p>研修会名：「ひむかピア交流会・風船バレー」</p> <p>㊦とりじゃない ㊧りをしない ㊨んたんに</p> <p>日時：平成29年2月3日（金）10：00～15：00</p> <p>場所：午前中：社会福祉法人敬尚会 江南よしみ地域生活支援センター 午後：宮崎市障がい者体育センター（宮崎市恒久字西原5132番地2）</p> <p>ひむかピア交流会・風船バレー参加者：89名 （内訳）県内の地域生活支援センター（9箇所）の当事者の方：48名、スタッフ：26名 公的機関（保健所や市社協）、地域の方（本郷地区社協や宮崎市議の方）：15名 開催に向けた実行委員会に参加頂いた当事者の方：20名</p> <p>交流会の目的：ピアサポート活動の拠点的な場所である県内の各地域生活支援センター（9箇所）が連携して交流会を行うことで県内のピアサポーターやピアサポート活動に関心のある当事者が安心して継続的に活動できるようになること。また、当事者間だけでなく専門職も顔の見える関係を作り、ピアサポーター・専門職がお互いの「強み」を知ることで、当事者の気持ちに寄り添った支援につなげられる環境づくりを行うことを目的として実施。</p> <p>交流会の実施方法：交流会に向けた実行委員会を県内の地域生活支援センター（9箇所）のピアサポーターとスタッフが江南よしみ地域生活支援センターに集まり4回実施し、交流会の実施方法を話し合った。</p> <p>さらに、実行委員会の準備等の為に江南よしみ地域生活支援センターを利用するピアサポーター（名称：江南よしみチーム会）同士で6回話し合いを開催。交流会当日は午前中に豆まきをゲーム形式でとりいれて楽しみながら茶話会形式にて交流会を実施。午後は障がい者体育センターに移動し、実行委員会で定めた独自のルールを用いて風船バレーによる交流会を通じて県内の地域生活支援センター（9箇所）の当事者の方・スタッフや公的機関・地域の方との交流を深めた。</p>

事業の成果

- 県内9箇所の地域生活支援センターのスタッフ・ピアサポーターがお互いに顔の見える関係づくり・お互いの「強み」を知る良いきっかけ作りができて、各支援センター同士が協力し、ともに学び合い、ピアサポーターやピアサポートに関心のある方が安心して継続的に活動できる環境づくりを行うことができた。また、スタッフからは、ピアサポーターの方にどんな際に支援する必要があるのか？といった支援するためのヒントを得ることができ、ピアサポーターからは、病気を抱えていても仲間と協力し得意なことで参加すれば色々な事ができるという社会に一步踏み出す勇気を感じてもらうことができた。
- 交流会の企画・運営を、各センターが集まりピアサポーター・スタッフ合同による実行委員会を通じて行った。それにより、医療・福祉・行政などで働きたいと思っているピアサポーターの方にとって職場体験ができ、さらに、ピアサポーターが仕事として参加できるための環境づくり、医療や福祉、行政の現場で働ける選択肢を増やすことができた。スタッフにとっても、ピアサポーターの方の「強み」を知り、ともに学び支援できる環境が築けたことで日頃から様々な職種やピアサポーターとの連携・協同が必要となる地域移行・定着支援、さらには地域生活支援センターでの運営に役立てることができた。
- スタッフのみならずピアサポーターや当事者の方にとって、実行委員会や交流会への参加を通じて自分の利用している地域生活支援センター以外の支援センターを知ったことで新しい社会資源を知るきっかけ作りとなった。
- 当事者さんにとって、講演会等の話を聞くといった一方通行の交流と違い、風船バレーというスポーツによる交流活動を通じた接触体験を用いたことで、過度に緊張することなくお互い自然に分かち合える関係を構築できた。また、当事者さんの地域生活を支える公的機関や地域の方にも、風船バレーを通じて支援者と当事者さんが一緒に笑ったり励まし合ったり、お互いに楽しく交流している様子を見学していただき、支援者と当事者さんとの目指すべき姿に気づいてもらうことができた。
- 地区社協や市社協、市議会議員など地域住民の方が交流会に参加いただいたことで、障害に対する理解、地域生活支援センターの活動やその有効性について理解していただくことができた。